

## 【声明文】

### 2013年12月4日に消費者庁より発表になったレーシック報道について

この度、消費者庁より発表された「600人を対象としたアンケート調査の4割に問題があった」とする根拠はまったく不明瞭であり、このような発表と報道がなされたことを真に遺憾に思います。それほど問題の多い治療であれば、我々眼科医はこの治療を現在のように行ってはいません。レーシックの安全性および有効性については、多くの眼科雑誌で報告されており、当会サイトでも代表的なレビューを紹介しています。確かに、モラルを欠いた非常識な医師（銀座眼科の例）によるずさんな治療や、インターネットで安価な治療を提示して薄利多売的な事業を行っている施設による治療の質には我々も問題と考えており、十分に注意をしていただきたいとの思いから、情報提供・啓発に取り組んでいます。しかし、レーシック手術そのものが危険を伴うものととれる発表と報道は、現在の科学を否定し、時代の流れに逆行するものです。海外で一般的に行われている治療が、日本では受けられない、といった不自然な状況を生み出すものと危惧します。このような科学的裏付けの評価を得られないデータ（母集団が不明、重複回答の可能性あり）を発表した消費者庁の行いは、消費者庁の存在価値を揺るがす重大な問題と考えます。レーシックは厚生労働省が臨床治験を経て認可した術式であり、よって今回の発表は消費者庁が厚生労働省の臨床治験そのものを否定したことになります。これはあまりにも杜撰な発表であり、消費者庁の学識的な水準と組織そのものの在り方をも問われる由々しき事態といえます。レーシックは眼科医療技術ですので、目の医学について十分な知識があり臨床経験を積んだ眼科専門医による診断をまずは受けていただくことが重要です。安心LASIKネットワークでは、レーシックを安全に受けていただくための『安心の条件』と、レーシックを受ける前の『10のチェックリスト』を提示しています。メガネやコンタクトレンズを快適に使用でき、とくにそれを外したいと思わない人は手術を受ける必要はありません。メガネやコンタクトレンズが自分のライフスタイルや目の状態に合わないなど、裸眼の生活を望まれる方にとって、レーシックは有効な選択肢となります。その時は、安全に眼科医療として眼科専門医のもとでレーシックを受けていただきたいと願っています。

安心LASIKネットワーク 眼科医師 一同